



第7回ふるさとあずま作品展を開催しました

令和7年2月9日(日)～2月14日(金)まで東地区の方から募集した絵画、工芸、書道、写真、文芸の各作品の展示会を東公民館ホールで開催しました。



7回目を迎えた作品展には、東地区在住の7歳から91歳に及ぶ皆さんから、過去最高となる88点の応募がありました。

出展作品は、東地区に係るテーマ部門や自由作品部門から、日本画、洋画、鉛筆画、貼り絵、写真、陶芸、書道、川柳、着物や帯の再生小物、土偶、バードカービングなど広範囲に及びましたが、いずれの作品も溢れ出る躍動感や流麗な筆致、静謐さなどが目に表現されており、観覧者に深い感動を呼びました。

また展示最終日には、約30人が参加し作品鑑賞会が行われましたが、制作者自身の作品に込めた想いや、専門的・技術的な意見の交換も活発に行われるなど、和やかな雰囲気の中に作品展を終了することができました。

(東地区地域づくり協議会 地域担当専門員 川田)

東地区の歴史と地名

古市(ふるいち)・その二

古市村の字名(江戸期からの地名)・県立文書館所蔵・明治六年の地籍図より

屋鋪(やしき)

中心集落で家のある地。明治九年の地租改正時に宅地添と改名して消滅。現地の範囲は、古市町一丁目の古市町公園の周辺。

村前(むらまえ)

集落(屋鋪)の前方(南)にある地。昭和五七年一部を古市町一丁目に編入。現地の範囲は、古市町一丁目南部。

村北(むらきた)

集落(屋鋪)の北方にある地。地租改正時に、一部を分割、樋越と飯玉と松場を起立。昭和五七年新前橋町と古市町一丁目に、変更して消滅。現地の範囲は、古市町一丁目の北部と新前橋町中央部の平成大橋線の両側。

村東(むらひがし)

集落(屋鋪)の東方にある地。昭和五三年小相木町一丁目・下石倉町・新前橋町・古市町一丁目に、昭和五七年新前橋町と古市町一丁目に編入して消滅。現地の範囲は、古市町一丁目の東部、下石倉町の西部、小相木町一丁目の北西部付近。

赤鳥(あかからす)

国府の朱雀門があった付近か、朱雀から赤鳥、そして赤鳥と転訛したと考えられます。赤鳥神社の周辺の地で、昭和五七年新前橋町と古市町一丁目へ編入して消滅。現地の範囲は、新前橋駅前から南東へ延びる大通りの突き当たりまでの、両側の繁華街の地区。

村西(むらにし)

集落(屋鋪)の西方にある地。昭和五七年一部を新前橋町と古市町一丁目に編入。昭和五七年に字の一部を廃止しています。現地の範囲は、新前橋駅の南西部で、フォレストモール新前橋付近。

七仏(しちぶつ)

七仏薬師が祀られていた地。現在は墓地となっています。現地の範囲は、新前橋駅・川曲線の西で、水資源開発公団の北付近。

枯木(かれき)

JRの電区付近で、湿地で少し土地を掘ると湧水が多く、木の成育が悪く枯れてしまうことから命名された。昭和五七年一部を新前橋町に編入。現地の範囲は、JR新前橋電区から東へ、新前橋駅の西口と東口を含み、新前橋公民館付近まで。

熊野(くまの)

熊野神社の周辺にある地。現在熊野神社は赤鳥神社の境内に移されています。昭和五三年小相木町一丁目と古市町一丁目に、昭和五七年古市町一丁目に変更して消滅。現地の範囲は、滝川の東で、古市町一丁目の南東部と小相木町一丁目の南西部付近。

狸塚(むじなづか)

旧国道と新道の間付近で、塚に狸が棲んでいたもので命名したものです。昭和五七年一部を古市町一丁目に編入。昭和五七年に字の一部を廃止。現地の範囲は、上越線と南部大橋線の立体交差を基点として、東へ大和設備付近と南へ県道前橋高崎線と宇佐美街道との交点少し南を結んだ扇形の土地です。

和尚塚(おしょうづか)

宇佐美街道の側で、江田との境に塚があり、一四世紀末の多宝塔や庚申塔がありました。大正六年の上越線敷設に伴い、塚の土は線路や新前橋駅前の道路に使用され、塔は古市公民館前に移動されています。和尚や六部を葬ったと言われ、「和尚塚」と呼んでいます。現地の範囲は、古市町の南西部で、南部大橋線と宇佐美街道の南付近。